

第 2 期館林市まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和 5 年度実績報告書

館 林 市

第2期館林市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和5年度実績報告書

1 目的

第2期館林市まち・ひと・しごと創生総合戦略において設定した成果指標及びKPIの令和5年度の実績を把握するとともに、成果、課題及び方向性を整理することにより、総合戦略の推進に役立てるもの

2 結果 (別紙1・別紙2参照)

令和5年度指標達成率(進捗率A・B(80%以上)となった指標の割合)

45.7% (昨年度比1.4ポイント減)

【内訳】

基本目標	全指標数	令和5年度							【参考】 令和4年度
		対象 指標数	A	B	C	D	—	指標 進捗率 (A・B)	指標 進捗率 (A・B)
1 豊かな地域をつくとともに、安心して働けるようにする	12	10	3	1	2	4	2	40.0%	33.3%
2 本市とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる	10	10	8	0	0	2	0	80.0%	80.0%
3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	7	7	1	0	2	4	0	14.3%	14.3%
4 人が集う、安心して暮らすことのできる魅力的な地域をつくる	8	8	3	0	1	4	0	37.5%	50.0%
計	37	35	15	1	5	14	2	45.7%	47.1%

※ 調査の対象年度でないものは—(ハイフン)

3 実績に対する分析

(1) 指標について

- 各指標は、令和元年度時点の数値(現状値)及び令和7年度時点の数値(目標値)を設定し、原則毎年度報告される実績値により、総合戦略が着実に実施されているか進捗状況を測定する。
- なお、毎年度の評価については、現状値と目標値から案分した年次目標値を設定し、年次目標値に対する実績値を評価する。

※ 指標の性格上、特定の年度にのみ目標値を設定しているものや、規則的な案分値でないもの(別途年度目標値が存在する場合等)も存在する。

(2) 評価方法

第2期総合戦略における全37指標中、出典元となる統計調査等の集計年度でない3指標を除く、計34指標について以下のとおり評価を実施

評価に当たっては、まず次のいずれかの計算式により各指標の進捗率を算出

$$\left(\begin{array}{l} \text{ア (実績値-現状値) / (年次目標値-現状値)} \\ \text{イ 実績値/年次目標値 ※指標が計画期間5か年の累計値の場合} \end{array} \right)$$

上記の計算式によって得られた進捗率について、次のように4段階の評価を実施

100%以上の進捗率	A
80%以上～100%未満の進捗率	B
50%以上～80%未満の進捗率	C
50%未満の進捗率	D

このうち、A・B判定については、現状値から順調に推移した「達成」指標とし、基本目標ごとに「達成」指標の個数を数え、指標進捗率を算出

(3) 全体分析

- ・ 全体の指標進捗率としては45.7%となっており、昨年度の47.1%から1.4ポイントの減となっている。
- ・ 進捗率が減となった理由としては、「基本目標4（人が集う、安心して暮らすことのできる魅力的な地域をつくる）」における「交通事故発生件数」について、事故発生件数が増加し、評価が悪化してしまったことである。
- ・ 一方、A・B判定にはなっていないものの、評価の良化が見られた指標もあり、特に「基本目標3（結婚・出産・子育ての希望をかなえる）」における結婚支援関連の指標については評価が良化するなど、一定程度、取組の成果も表れていることが伺える。

(4) 個別分析

ア 「基本目標1 豊かな地域をつくとともに、安心して働けるようにする」
指標進捗率40.0%（昨年度33.3% 6.7ポイント増）

- ・ 目標全体の進捗率としては40.0%となっており、昨年度から6.7ポイント増加した。

- ・ 理由としては、これまで調査対象（結果公表）年度ではなく対象外としていた「従業員1人あたりの付加価値額」について調査結果が公表され、結果が良好であったことによるものであり、産業（製造業）の振興が図られていることが示された。
- ・ 一方、昨年度に引き続き、「就職率」や「農業出荷額」、農業従事者の減少などに伴う「農用地利用集積面積」の数値が低い状況であり、引き続き、経済分野におけるさらなる取組の推進が求められる。
- ・ このような中、「既存商店店舗診断の件数」については、関連する補助制度の創設などを進めた結果、評価の良化が見られた。

イ 「基本目標2 本市とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる」

指標進捗率80.0%（昨年度80.0% 増減なし）

- ・ 目標全体の進捗率としては80.0%となっており、昨年度からの増減はなかったものの、比較的高い水準で推移しているところであり、HPやSNSなどを活用した情報発信や移住定住促進等の取組について、取組の成果が表れている。
- ・ このような中、新型コロナウイルス感染症の影響を多大に受けた「観光入込客数」については、ほぼコロナ禍前まで回復しており、今後においても、各種観光施策を積極的に推進していくことにより、観光入込客数のさらなる増加が期待できる。

ウ 「基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

指標進捗率14.3%（昨年度14.3% 増減なし）

- ・ 目標全体の進捗率としては14.3%となっており、昨年度からポイントの増減はなく、依然として進捗率が低い状況である。
- ・ 全国的な課題である「婚姻数」や「合計特殊出生率」、また「ファミリー・サポート・センターの延べ登録者数」、改善が見られたものの「病児・病後児保育事業の登録者数」の数値が低く、子育て支援等、人口減少対策に係る本市の取組のさらなる推進が求められる。
- ・ このような中、コロナ禍が明け婚活イベント等が再開となったことから「市の支援による婚活イベント参加者数」及び「市の支援による婚活事業でのカップル成立数」については市の広報や各種支援等により評価が良化しており、今後においても、結婚支援等の取組を推進し、効果的な人口減少対策に繋げていく必要がある。

エ 「基本目標4 人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」

指標進捗率37.5%（昨年度50.0% 12.5ポイント減）

- ・ 目標全体の進捗率としては37.5%となっており、昨年度から12.5ポイント減少した。

- ・ 理由としては、先述のとおり「交通事故発生件数」について、件数が増加し、評価が悪化（A評価→D評価）してしまったことであるが、目標全体の進捗率も低い状況であり、交通政策や地区防災計画策定支援等の取組を進めていく必要がある。
- ・ 一方、「ふるさと納税寄附金額」については大幅な増加が見られ、評価が良化しているほか、「路線バスの年間利用者数」についても増加し、コロナ禍前の利用者数を上回るなど、本市の取組について、一定程度の成果が表れていることが伺える。

4 今後の対応

- ・ 検証結果について、担当部署へフィードバックし、事務事業の改善に努めていく。
- ・ また、これまでの検証結果を踏まえ、令和7年度における次期総合戦略の策定に向け、内容等について各種検討を進める。

5 今後のスケジュール（予定）

- 令和6年10月 「館林市まち・ひと・しごと総合戦略検証委員会」の開催
- 令和7年度 「館林市デジタル田園都市構想総合戦略（第3期館林市まち・ひと・しごと総合戦略）」の策定

第2期総合戦略 令和5年度重要業績評価指標(KPI)実績一覧

別紙1

基本目標/基本的方向	NO.	成果指標・重要業績評価指標(KPI)	出典・根拠	単位	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和5年度)	コロナ	目標値 (令和5年度)	進捗率 (%)	進捗状況 (A~D)	分野別 平均 進捗率	分野別 進捗状況 (A~D)	成果	課題・方向性	回答課
基本目標1 豊かな地域をつくるとともに、安心して働けるようにする	1	従業員1人当たりの付加価値額	工業統計調査 経済構造実態調査	万円	1,198 (H30年度)	1,230	1,490 (R4年度)		1,219	139%	A	695%	A	-	-	商工課
		就職率	館林市統計書	%	7.6	9.0	5.1 (R4年度)		8.5	0%	D			-	-	商工課
【基本的方向1】「産業分野」	1-1	新規産業団地などの造成	産業政策課	ha	-	56.2	-		-	-	-	42%	D	・環境アセスメントを継続実施し、都市計画手続きや事業予定者等との協議は順調に進んでいる。 ・令和6年度の用地買収へ向けた個別地権者交渉も順調に進んでいる。	未同意者への対応を強化していく。	産業政策課
	1-2	企業立地及び設備投資件数	工業統計調査・商工課	件	4	累計20	5		12	42%	D			目標値12件(累計)に対し、実績は5件となり、目標値を下回ったものの、令和5年度単年では4件となり、数値に改善が見られた。	工業統計調査が廃止されたことから、今後の数値把握手法の検討が必要である。	商工課
【基本的方向2】「商業」	1-3	既存商店店舗診断の件数	商工課	件	2	累計15	7		9	78%	C	117%	A	中小企業診断士が申込店舗の経営状況の診断を行い、経営継続に向けた課題の洗い出し・アドバイスを行った。	申込店舗を増やし、市内店舗の経営継続に向けた支援を行う。	商工課
	1-4	遊休不動産の利活用件数	商工課	件	2	累計15	14		9	156%	A			遊休不動産を改装し店舗として活用したほか、イベント開催によって、利活用を行った。	空き店舗等の遊休不動産を改装し、利活用される方を支援することで経済活動を維持していく。	商工課
	1-5	小売業・卸売業の1店舗当たりの年間商品販売額	経済センサス	百万円	337 (H28年度)	340	-		-	-	-			-	-	-
【基本的方向3】「労働環境」	1-6	企業ガイダンス参加者数	商工課	人	507 (H30年度)	累計2,500	758	○	1,500	51%	C	69%	C	令和5年度においては、関東学園大学附属高校、板倉高校で出張ガイダンスを開催し、延べ16社が企業説明を行った。	・教諭の働き方改革等の影響により、各高校でガイダンスに時間が割けなくなっている。 ・進学率の向上により、館林邑楽域内の高校生の参加者確保が難しくなっており、事業の在り方について検討を進める必要がある。	商工課
	1-7	Uターン支援奨励金の受給労働者数	商工課	人	46	累計200	104		120	87%	B			令和5年度においては、10社33名に奨励金を支給した。	・人材確保が非常に難しくなっており、また、近隣に比べ低賃金であることから、域外への労働力の流出も懸念される。 ・待遇改善等による企業の魅力向上や自社の情報発信の必要性について、企業への働きかけを推進する。	商工課
【基本的方向4】「農業」	1-8	担い手の農地利用集積状況	農業振興課 農業委員会事務局	%	58.2	65	65		62.7	104%	A	45%	D	担い手の農地利用集積状況は、年度目標を上回っており、農地中間管理事業の取組効果が出ている。	農業従事者の高齢化や後継者不足により遊休農地や耕作放棄地の増加が予想されるが、引き続き、農地利用の最適化の促進を図る。	農業振興課 農業委員会事務局
	1-9	農業産出額	農林水産省	億円	59.5 (H30年度)	61	53	○	60.5	0%	D			年度目標に達していないのは、新型コロナウイルス感染症の影響と思われる消費低迷が要因と考えられるが、農産物出荷額は前年より増加している。	農業従事者の高齢化や後継者不足や資材高騰など情勢が不安定なため、引き続き各種政策を通じて支援を行う。	農業振興課
	1-10	農用地利用集積面積	農業委員会事務局	ha	840	1,020	876		960	30%	D			農用地利用集積状況は、年度目標を下回っており、要因としては、農業従事者の高齢化や後継者不足、新規就農者の減少などにより農地の集積・集約化が図れなかったことが考えられる。	農業従事者の高齢化や後継者不足などにより遊休農地の増加が予想されるが、引き続き、農地利用の最適化の促進を図る。	農業委員会事務局

基本目標／基本的方向	NO.	成果指標・重要業績評価指標 (KPI)	出典・根拠	単位	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和5年度)	コロナ	目標値 (令和5年度)	進捗率 (%)	進捗状況 (A~D)	分野別 平均 進捗率	分野別 進捗状況 (A~D)	成果	課題・方向性	回答課
基本目標2 本市とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる	2	社会増減数	群馬県移動人口調査	人	△ 48	△ 22	285		△ 31	1921%	A	1921%	A	-	-	企画課
【基本的方向1】「観光」	2-1	観光入込客数	つつじのまち観光課	人	1,489,539	1,650,000	1,448,609	○	1,594,694	0%	D	37%	D	令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、観光入込数も回復が見られた。	既存の観光イベントのブラッシュアップや積極的な情報発信、沼やアニメツアーリズム等の新規コンテンツの開発により入込数の増加を目指す。	つつじのまち観光課
	2-2	つつじまつり入園者数	つつじのまち観光課	人	129,242	140,000	102,826	○	93,600	110%	A			来園者数は回復傾向にあるが、目標値(コロナ禍前の入園者数)には届かなかった。	インバウンドも含め、広報活動の強化や、運営体制の改善等に努め、入園者数と収益の確保に努める。	つつじのまち観光課
	2-3	観光ボランティアガイドの登録者数	つつじのまち観光課	人	65	80	55	○	75	0%	D			観光案内の機会は回復傾向にあるが、登録者数の増加には繋がらなかった。	・観光客等からの要請に対応できるよう、適宜ボランティアの育成研修や、支援等を実施し、案内技術の向上を図る。 ・高齢化が課題となっているため、登録者の確保に努める。	つつじのまち観光課
【基本的方向2】「まちのにぎわい」	2-4	遊休不動産の利活用件数(再掲)	商工課	件	2	累計15	14		9	156%	A	158%	A	遊休不動産を改装し店舗として活用したほか、イベント開催によって、利活用を行った。	空き店舗等の遊休不動産を改装し、利活用される方を支援することで経済活動を維持していく。	商工課
	2-5	移住定住の相談人数	企画課	人	27	累計150	145	○	90	161%	A			・令和5年度においては、対面・オンラインそれぞれの移住相談会に参加するなど、新たな施策にも取り組むことができた。 ・このような中、令和5年度の移住相談人数は65人となり、年々相談件数が増加しているとともに、実際に本市への移住に繋がっている例もある。 【令和5年度内訳】 移住相談会での相談 41名 電話・メール等による相談 24名	・移住相談会では、県内においては高崎市やみなかみ町などが人気であり、東毛地区のブースへの来客は全体的に少ない傾向に見られ、「館林市」を知らないかたも多く、本市の知名度を上げる必要がある。 ・本市への移住・定住の促進のため、シティブロモーション等をさらに進めるとともに、移住相談会でのブースの工夫やきめ細かな移住相談を行うなど、取組を強化していく。	企画課
	2-6	東京都でのPR活動回数	企画課	回	2	累計10	11		6	183%	A			・令和5年度においても東京都において対面での移住相談会(オールぐんま移住相談会)が開催されたほか、オンライン相談会も開催された。 【令和5年度】 2回	・対面でのイベント等は回数が増加し、機会を捉え参加を行ったものの、オンラインイベント等の参加が減ってしまったことから、今後については対面・オンライン問わず積極的にPRを行っていく。	企画課
	2-7	空き家バンク登録物件利活用件数	企画課	件	2	累計20	16		12	133%	A			令和5年度の利活用件数は5件であり、前年度実績と同水準を維持している。	利活用推進のためには、まずは空き家バンクの登録物件を増やす必要があることから、利活用の希望がある所有者に対してバンクへの登録を促すとともに、市内の不動産会社に働きかけるなどして、登録物件を増やしていく。	企画課
【基本的方向3】「情報の共有」	2-8	ホームページへのアクセス数	秘書課	件	2,509,601	4,015,361	4,774,587		3,513,441	226%	A	182%	A	年度目標値(3,513,441件)を上回るとともに、令和7年度目標値にも達している。	ホームページは、市民など利用者にとって利便性の高い情報手段である。分かりやすいページ作りのほか、早く、正確な情報の提供に努めている。	秘書課
	2-9	SNSのフォロワー数	秘書課	人	1,520	4,520	4,250		3,520	137%	A			年度目標値(3,520人)を上回った。	市ホームページなど他媒体と連動させながら特性を生かした運用を行っている。	秘書課

基本目標／基本的方向	NO.	成果指標・重要業績評価指標 (KPI)	出典・根拠	単位	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和5年度)	コロナ	目標値 (令和5年度)	進捗率 (%)	進捗状況 (A~D)	分野別平均進捗率	分野別進捗状況 (A~D)	成果	課題・方向性	回答課
基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	3	合計特殊出生率	群馬県人口動態調査	—	1.19	1.6	1.02 (R4年度)		1.46	0%	D	0%	D	-	-	企画課
		婚姻数	群馬県人口動態調査	件	315	360	257 (R4年度)		345	0%	D			-	-	企画課
【基本的方向1】「まちのにぎわい」	3-1	市の支援による婚活イベント参加者数	企画課 市民協働課	人	65	累計445	148	○	267	55%	C	56%	C	市が支援したイベント・お見合いにおいて、新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、イベントが再開した令和4年度から令和5年度までの2か年で累計148人の参加があった。	・今後は、対面のほか、オンラインでの婚活イベントや若い世代に向けた結婚に関するライフデザインの実施など、イベントに付加価値をつけて参加者数の増加を図る必要がある。 ・また、社会福祉協議会や婚活応援支援員と連携し、コロナ禍の状況でもニーズにあった事業を展開することで相談登録者確保に繋げ、婚活支援を継続していく。 ・さらに「婚活支援事業補助金」についても積極的に周知し、民間によるイベント開催の増進を図る。	企画課 市民協働課
	3-2	市の支援による婚活事業でのカップル成立数	企画課 市民協働課	組	5	累計50	17	○	30	57%	C			市が支援したイベント・お見合いにおいて、令和3年度からの3か年で累計17組のカップルが成立した。	・今後は、対面のほか、オンラインでの婚活イベントや若い世代に向けた結婚に関するライフデザインの実施など、イベントに付加価値をつけて参加者数の増加を図る必要がある。 ・また、委託先である館林市社会福祉協議会や婚活応援支援員と連携し、コロナ禍の状況でもニーズにあった事業を展開することで相談登録者確保に繋げ、婚活支援を継続していく。	企画課 市民協働課
【基本的方向2】「子育て」	3-3	ファミリー・サポート・センターの延べ登録者数	子育て支援課	人	345	645	438	○	545	47%	D	217%	A	「おねがい会員」の新規登録者数が前年度よりも多く、地域における子育て支援の活性化につながった。	「まかせて会員」の新規登録者数が思うように伸びておらず、地域の人々の子育て支援への参加を促すような周知方法等を工夫していく。	子育て支援課
	3-4	病児・病後児保育事業の登録者数	こども課	人	227	403	189	○	344	0%	D			新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、一部利用制限がかかっていたことから、登録者数も大幅に減少していたが、5類移行による受入制限の緩和や巡回支援の再開により、登録者数を前年度比増(+23件)とすることができた。	これまで年度初めにかけてのみ周知していた利用登録通知を年度途中にも複数回周知するなど、積極的に利用登録の推進を図るほか、より使い易い予約システムの活用について検討を進める。	こども課
	3-5	子育て支援モバイルサービス登録率	健康推進課	%	61.8	67.8	85.9		65.8	603%	A			・同一人に対し、妊娠届出時や妊婦訪問さらに新生児訪問と複数回、モバイルサービスの登録を促すことで、高い登録率を維持することができた。 ・年度途中の9月から3月まで、毎月子育てワンポイントアドバイスをプッシュ通知で登録者に情報配信を行うとともに、子育ての相談場所として「かるがも相談室」の周知を行った。	・今後も、個々の状況に応じ、モバイルサービスの登録を個別対応で促すことにより、登録率の向上を目指す。 ・モバイルサービスの内容についても、コンスタントに情報発信を行うことで、登録者に対し、子育て情報をタイムリーに届けられるようにしていく。	健康推進課

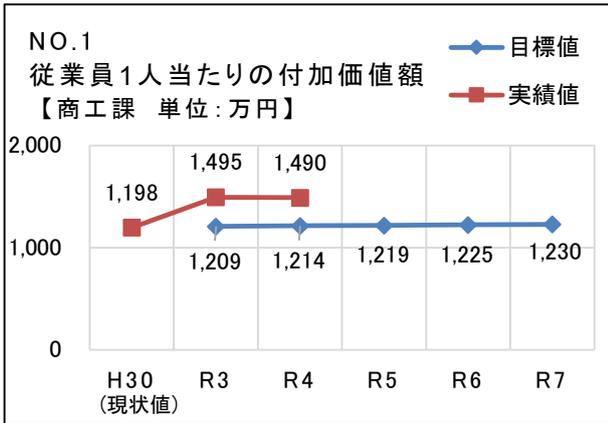
基本目標／基本的方向	NO.	成果指標・重要業績評価指標 (KPI)	出典・根拠	単位	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和5年度)	コロナ	目標値 (令和5年度)	進捗率 (%)	進捗状況 (A~D)	分野別 平均 進捗率	分野別 進捗状況 (A~D)	成果	課題・方向性	回答課
基本目標4 人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	4	住みよさランキング	都市データバンク (東洋経済)	位	287	200位以内	400		229	0%	D	0%	D	-	-	企画課
【基本的方向1】「防災」	4-1	自主防災組織の組織率	安全安心課	%	92.4	100	93.9		97	30%	D	30%	D	自主防災組織が未設立の行政区に対し、自主防災組織の設立を促した。	各地区において自主的な防災活動が行われるよう、地区防災計画策定の支援を行うことなどにより、行政区による自主防災組織設置の動機づけをし、設置率の向上に努めていく。	安全安心課
【基本的方向2】「道路・交通」	4-2	交通事故発生件数	館林警察署	件	283	280	295		281	0%	D	8%	D	関係機関・団体と連携し交通安全運動を実施するとともに、地域要望等に基づき、交通安全施設の整備・維持に努めたが、交通事故発生件数が増加してしまった。	関係機関・団体と連携し啓発に取り組むとともに、交通安全施設整備の推進を図る。	安全安心課
	4-3	路線バスの年間利用者数	安全安心課	人	248,074	300,000	252,676	○	279,229	15%	D			・館林都市圏地域公共交通計画に基づき広域路線1路線を廃止し、市内生活路線2路線を運行開始する路線再編を行った。 ・また、市内路線への電気バス導入や、バス停へ上屋設置する環境整備を行った。 ・利用促進事業としては、沿線高校への啓発チラシ配布や乗り方教室を実施した。	館林都市圏地域公共交通計画に基づく施策を推進することにより、暮らしに寄り添う交通ネットワークの構築に取り組み、利用者数の増加を目指す。	安全安心課
【基本的方向3】「文化」	4-4	芸術文化施設における市民1人当たりの年間利用回数	文化振興課	回	2.5	2.5	1.48		2.5	59%	C	141%	A	前年度に比べ芸術ホールの利用は減少したものの、文化会館では、イベント開催の復調傾向によりホールや会議室利用者数が増加した。	芸術文化活動を推進するよう、老朽化した施設の維持管理が課題であり、安全安心な施設の利用のため、施設の長寿命化を図っていく。	文化振興課
	4-5	歴史文化施設における市民1人当たりの年間利用回数	文化振興課	回	0.3	0.3	0.668		0.3	223%	A			・館林市第一資料館は、図書館工事の影響で臨時休館措置をとったが、文化会館市民サロンを活用した代替展示室への来館者が多く、大幅増となった。 ・田山花袋記念文学館も消火設備改修工事により常設展示室のみの公開となったが、企画展のほか高校生による「花袋作品朗読プロジェクト」、「花袋カード」作成・配付など新たな取組の効果もあり、前年比で微増となった。	引き続き魅力ある展示会・ワークショップ等の企画・開催、施設整備につとめ、広報・周知活動を一層強化することで、市民が必ず年1回以上の施設利用を行うよう働きかけ、地域住民のシビックプライドを醸成していく。	文化振興課
【基本的方向4】「スポーツ」	4-6	スポーツ実施率 (週1回以上)	スポーツ振興課	%	31.3	50	54.9		43.8	189%	A	189%	A	スポーツ実施率は、スポーツ事業参加者及び公民館利用者等へのアンケートにより算出しており、体力の保持増進や健康志向の高まりから各種スポーツ事業への参加意識の向上が見られ、仲間づくりやコミュニケーション形成など、市民それぞれの目的に応じ取り組んでおり、目標値に達することができた。	今後も、市民ニーズを取り入れた各種スポーツ体験教室や家族や団体に気軽に楽しめるレクリエーション事業等を実施するとともに、よりスポーツに取り組みやすい環境を整備し、実施率を向上させていく。	スポーツ振興課
【基本的方向5】「行政活動」	4-7	ふるさと納税寄附金額	企画課	円	100,494,000	累計500,000,000	363,847,090		300,000,000	121%	A	121%	A	大手ポータルサイトの通年利用とともに、さらに2サイト「ふるなび・ANA」を追加したことにより、寄附額・寄附件数ともに大幅増とすることができた。	さらなるポータルサイトの追加、新たな返礼品の発掘を進めていく。	企画課

※出典元の集計結果公表の時期により現時点で把握できない数値は、把握できる最新年・年度の値を記入

 : 昨年度よりも進捗状況が良好

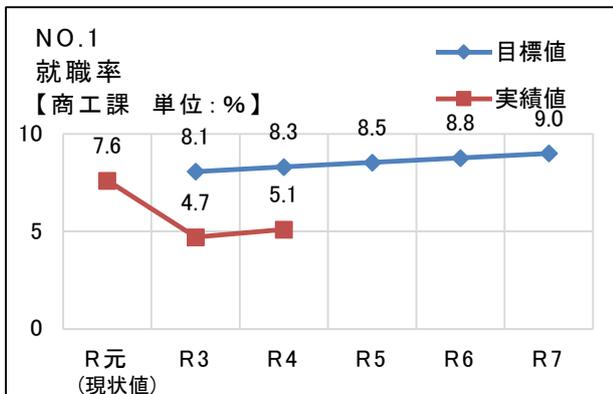
 : 昨年度よりも進捗状況が悪化

基本目標1 豊かな地域をつくとともに、安心して働けるようにする



成果

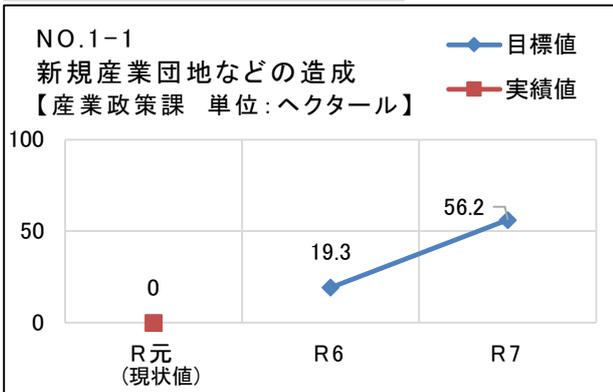
課題・方向性



成果

課題・方向性

分野：産業

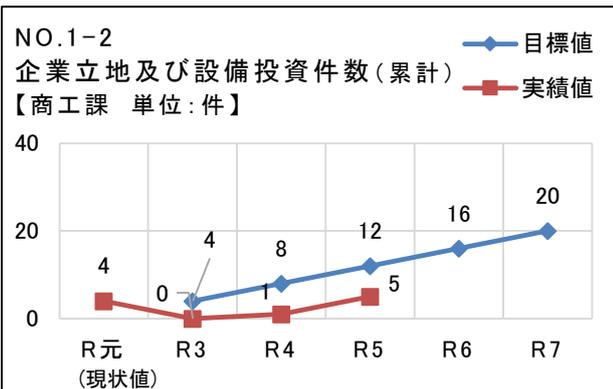


成果

- ・環境アセスメントを継続実施し、都市計画手続きや事業予定者等との協議は順調に進んでいる。
- ・令和6年度の用地買収へ向けた個別地権者交渉も順調に進んでいる。

課題・方向性

未同意者への対応を強化していく。



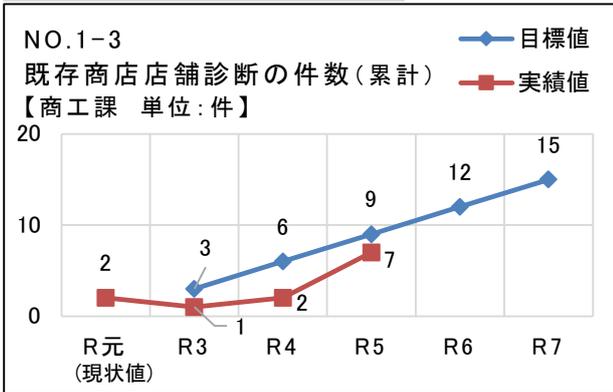
成果

目標値12件(累計)に対し、実績は5件となり、目標値を下回ったものの、令和5年度単年では4件となり、数値に改善が見られた。

課題・方向性

工業統計調査が廃止されたことから、今後の数値把握手法の検討が必要である。

分野：商業

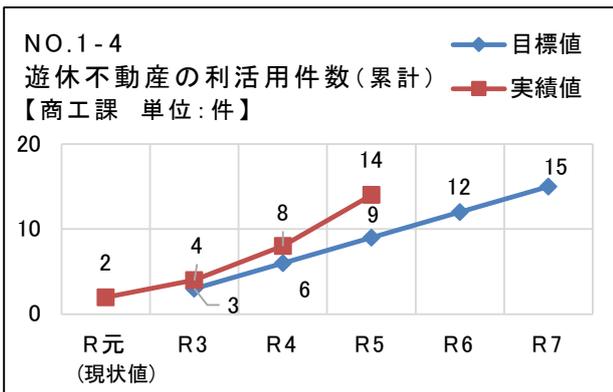


成果

中小企業診断士が申込店舗の経営状況の診断を行い、経営継続に向けた課題の洗い出し・アドバイスを行った。

課題・方向性

申込店舗を増やし、市内店舗の経営継続に向けた支援を行う。

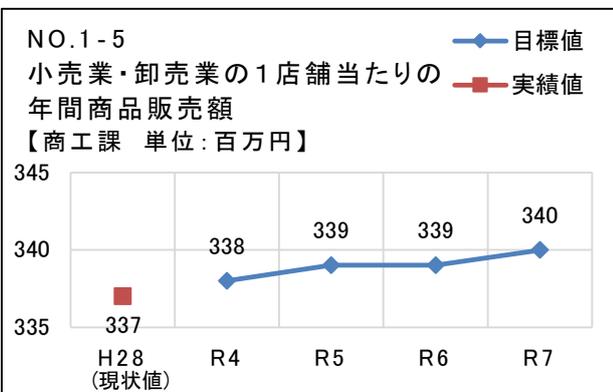


成果

遊休不動産を改装し店舗として活用したほか、イベント開催によって、利活用を行った。

課題・方向性

空き店舗等の遊休不動産を改装し、利活用される方を支援することで経済活動を維持していく。



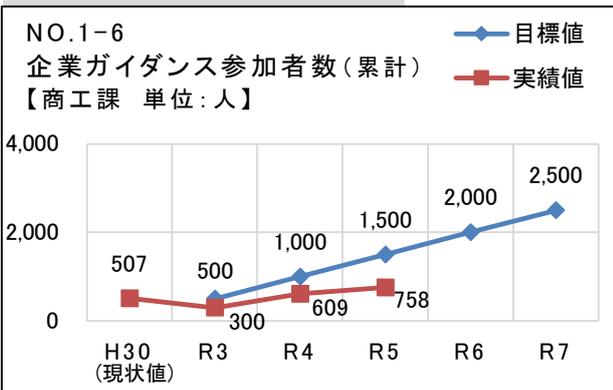
成果

※令和5年度実績値が公表されていないため、データなし

課題・方向性

-

分野：労働環境

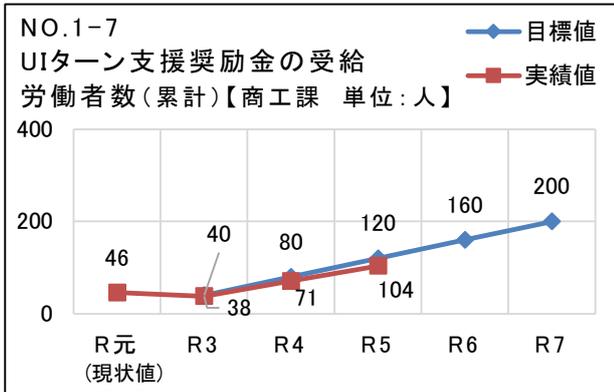


成果

令和5年度においては、関東学園大学附属高校、板倉高校で出張ガイダンスを開催し、延べ16社が企業説明を行った。

課題・方向性

- ・教諭の働き方改革等の影響により、各高校でガイダンスに時間が割けなくなっている。
- ・進学率の向上により、館林邑楽地域内の高校生の参加者確保が難しくなっており、事業の在り方について検討を進める必要がある。



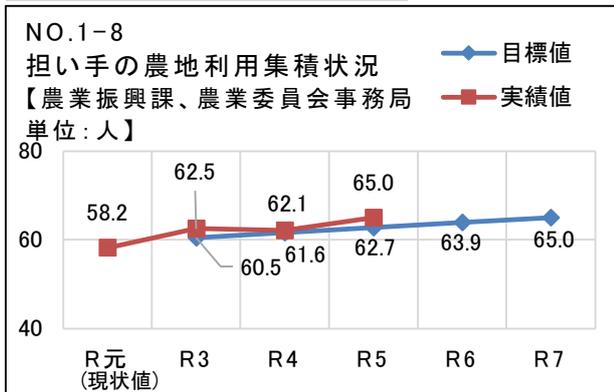
成果

令和5年度においては、10社33名に奨励金を支給した。

課題・方向性

- ・人材確保が非常に難しくなっており、また、近隣に比べ低賃金であることから、域外への労働力の流出も懸念される。
- ・待遇改善等による企業の魅力向上や自社の情報発信の必要性について、企業への働きかけを推進する。

分野：農業

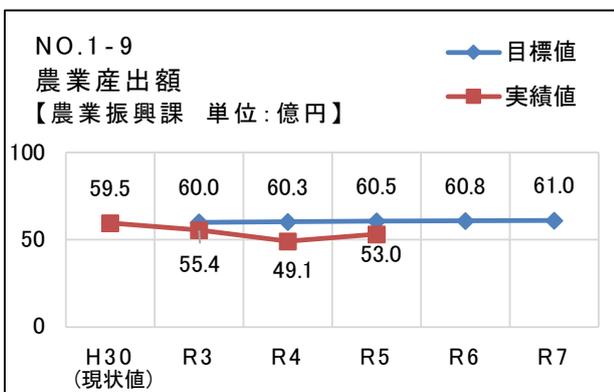


成果

担い手の農地利用集積状況は、年度目標を上回っており、農地中間管理事業の取組効果が出ている。

課題・方向性

農業従事者の高齢化や後継者不足により遊休農地や耕作放棄地の増加が予想されるが、引き続き、農地利用の最適化の促進を図る。

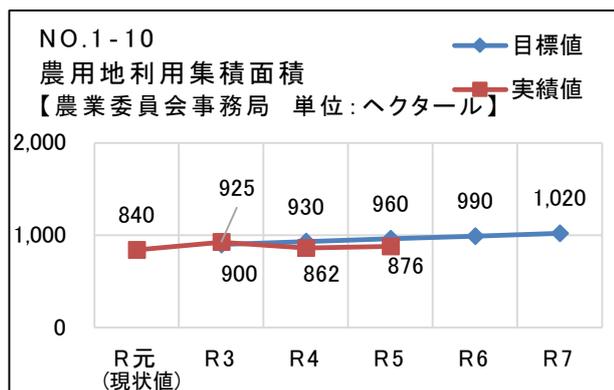


成果

年度目標に達していないのは、新型コロナウイルス感染症の影響と思われる消費低迷が要因と考えられるが、農産物出荷額は前年より増加している。

課題・方向性

農業従事者の高齢化や後継者不足や資材高騰など情勢が不安定なため、引き続き各種政策を通じて支援を行う。



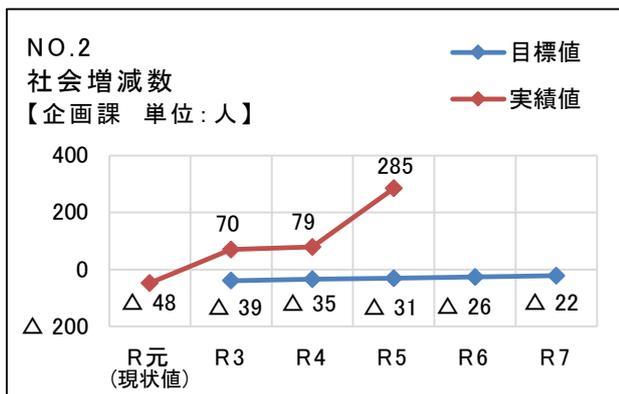
成果

農用地利用集積状況は、年度目標を下回っており、要因としては、農業従事者の高齢化や後継者不足、新規就農者の減少などにより農地の集積・集約化が図れなかったことが考えられる。

課題・方向性

農業従事者の高齢化や後継者不足などにより遊休農地の増加が予想されるが、引き続き、農地利用の最適化の促進を図る。

基本目標2 本市とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる



成果

課題・方向性

分野：観光

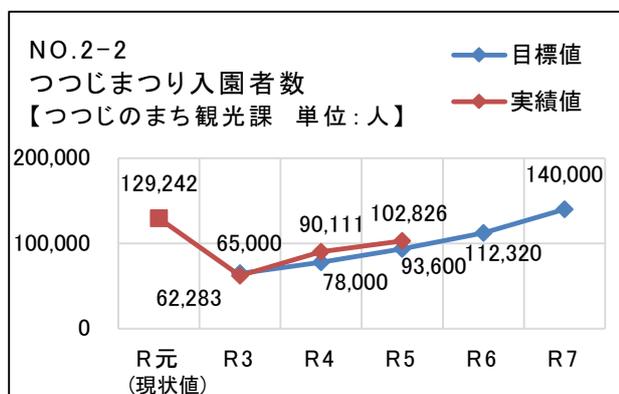


成果

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、観光入込数も回復が見られた。

課題・方向性

既存の観光イベントのブラッシュアップや積極的な情報発信、沼やアニメツーリズム等の新規コンテンツの開発により入込数の増加を目指す。

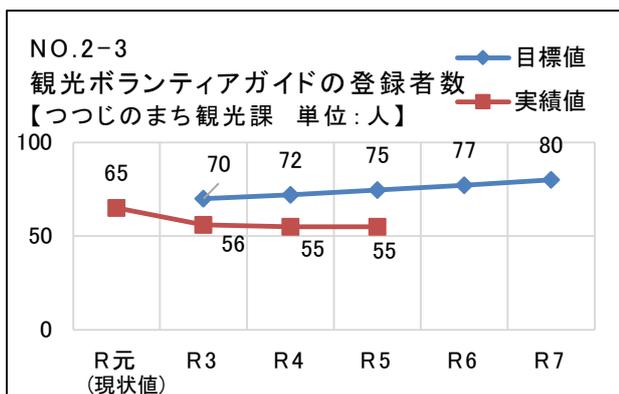


成果

来園者数は回復傾向にあるが、目標値（コロナ禍前の入園者数）には届かなかった。

課題・方向性

インバウンドも含め、広報活動の強化や、運営体制の改善等に努め、入園者数と収益の確保に努める。



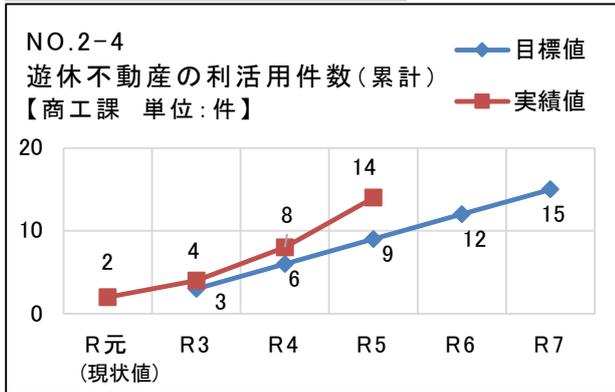
成果

観光案内の機会は回復傾向にあるが、登録者数の増加には繋がらなかった。

課題・方向性

- ・観光客等からの要請に対応できるよう、適宜ボランティアの育成研修や・支援等を実施し、案内技術の向上を図る。
- ・高齢化が課題となっているため、登録者の確保に務める。

分野：まちのにぎわい

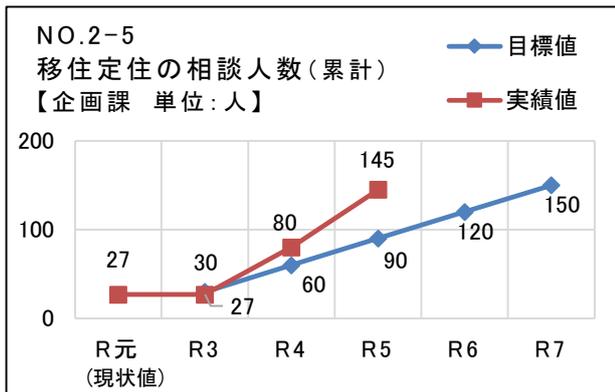


成果

遊休不動産を改装し店舗として活用したほか、イベント開催によって、利活用を行った。

課題・方向性

空き店舗等の遊休不動産を改装し、利活用される方を支援することで経済活動を維持していく。

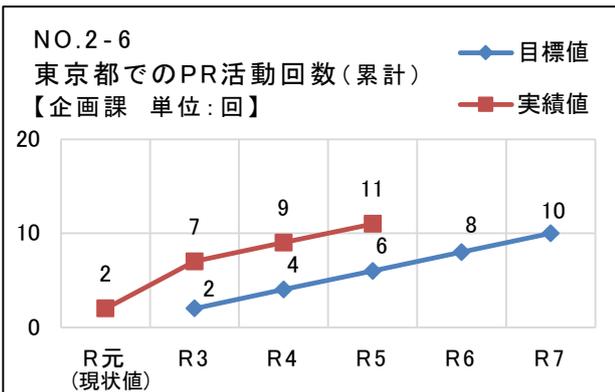


成果

- ・令和5年度においては、対面・オンラインそれぞれでの移住相談会に参加するなど、新たな施策にも取り組むことができた。
- ・このような中、令和5年度の移住相談人数は65人となり、年々相談件数が増加しているとともに、実際に本市への移住に繋がっている例もある。

課題・方向性

- ・移住相談会では、県内においては高崎市やみなかみ町などが人気であり、東毛地区のブースへの来客は全体的に少ない傾向に見られ、「館林市」を知らないかたも多く、本市の知名度を上げる必要がある。
- ・本市への移住・定住の促進のため、シティプロモーション等をさらに進めるとともに、移住相談会でのブースの工夫やきめ細かな移住相談を行うなど、取組を強化していく。

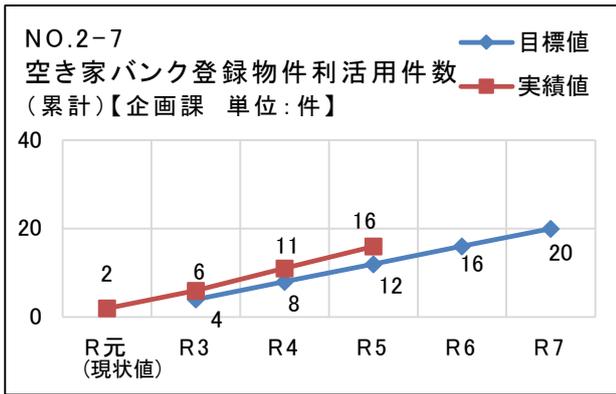


成果

- ・令和5年度においても東京都において対面での移住相談会（オールぐんま移住相談会）が開催されたほか、オンライン相談会も開催された。

課題・方向性

- ・対面でのイベント等は回数が増加し、機会を捉え参加を行ったものの、オンラインイベント等の参加が減ってしまったことから、今後については対面・オンライン問わず積極的にPRを行っていく。



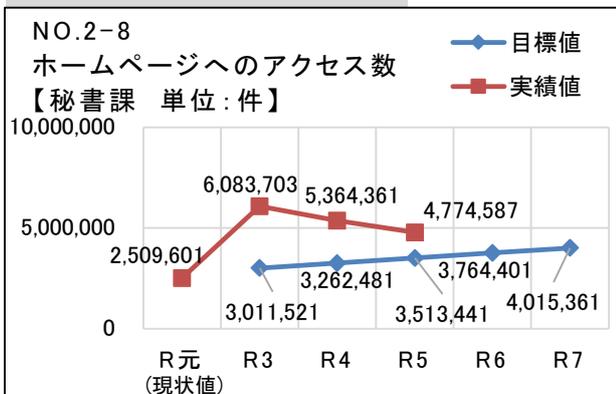
成果

令和5年度の利活用件数は5件であり、前年度実績と同水準を維持している。

課題・方向性

利活用推進のためには、まずは空き家バンクの登録物件を増やす必要があることから、利活用の希望がある所有者に対してバンクへの登録を促すとともに、市内の不動産会社に働きかけるなどして、登録物件を増やしていく。

分野：情報の共有

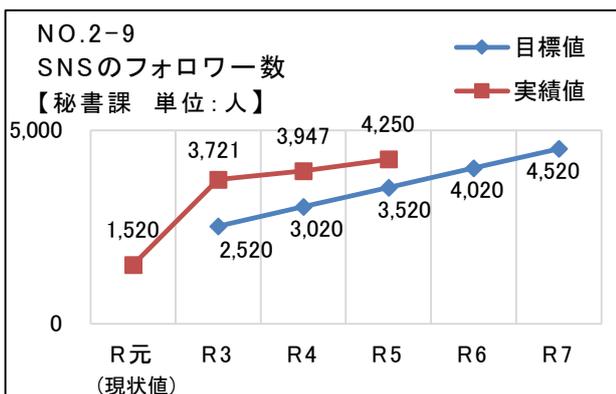


成果

年度目標値 (3,513,441件) を上回るとともに、令和7年度目標値にも達している。

課題・方向性

ホームページは、市民など利用者にとって利便性の高い情報手段である。分かりやすいページ作りのほか、早く、正確な情報の提供に努めていく。



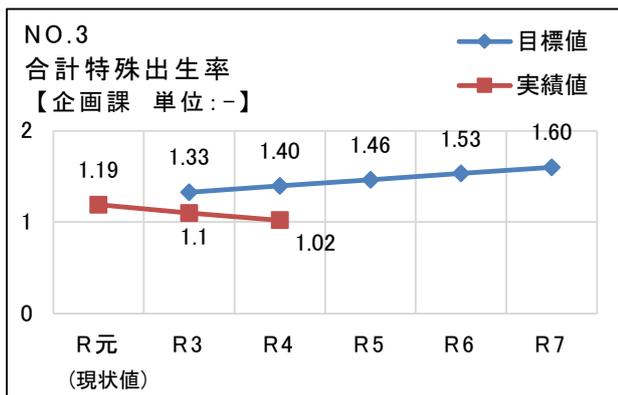
成果

年度目標値 (3,520人) を上回った。

課題・方向性

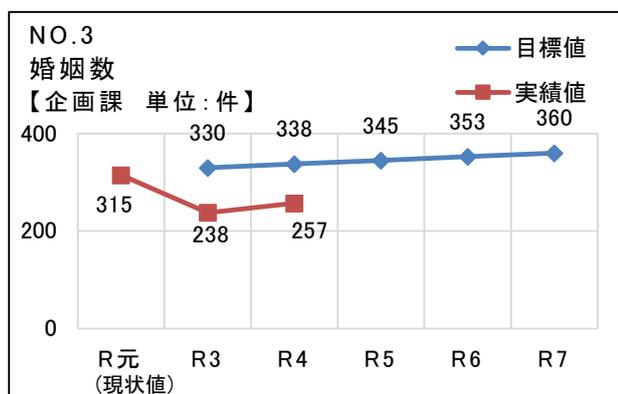
市ホームページなど他媒体と連動させながら特性を生かした運用を行っていく。

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる



成果

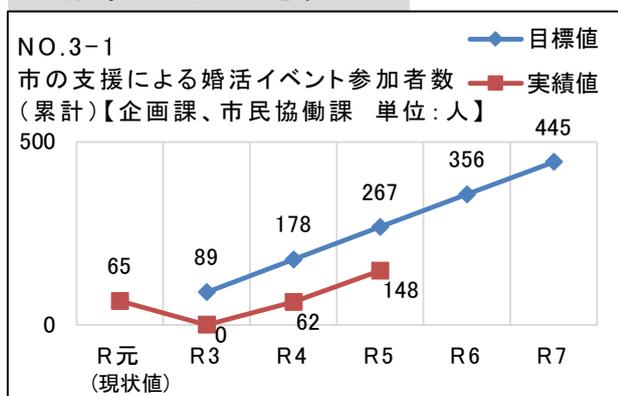
課題・方向性



成果

課題・方向性

分野：まちなぎわい

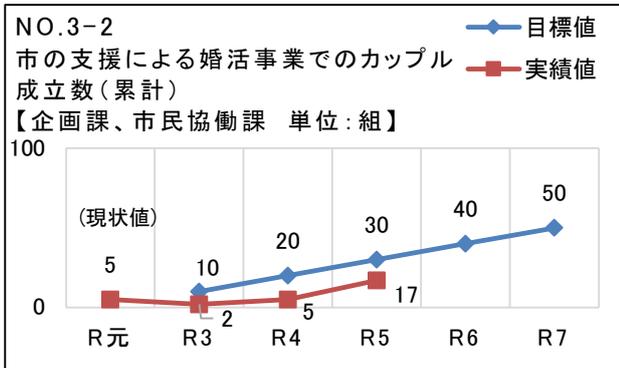


成果

市が支援したイベント・お見合いにおいて、新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、イベントが再開した令和4年度から令和5年度までの2か年で累計148人の参加があった。

課題・方向性

- ・ 今後は、対面のほか、オンラインでの婚活イベントや若い世代に向けた結婚に関するライフデザインの実施など、イベントに付加価値をつけて参加者数の増加を図る必要がある。
- ・ また、社会福祉協議会や婚活応援支援員と連携し、コロナ禍の状況でもニーズにあった事業を展開することで相談登録者確保に繋げ、婚活支援を継続していく。
- ・ さらに「婚活支援事業補助金」についても積極的に周知し、民間によるイベント開催の増進を図る。



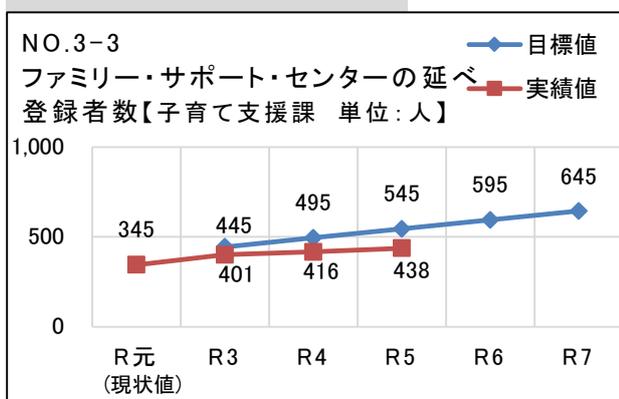
成果

市が支援したイベント・お見合いにおいて、令和3年度からの3か年で累計17組のカップルが成立した。

課題・方向性

- ・ 今後は、対面のほか、オンラインでの婚活イベントや若い世代に向けた結婚に関するライフデザインの実施など、イベントに付加価値をつけて参加者数の増加を図る必要がある。
- ・ また、委託先である館林市社会福祉協議会や婚活応援支援員と連携し、コロナ禍の状況でもニーズにあった事業を展開することで相談登録者確保に繋げ、婚活支援を継続していく。

分野：子育て

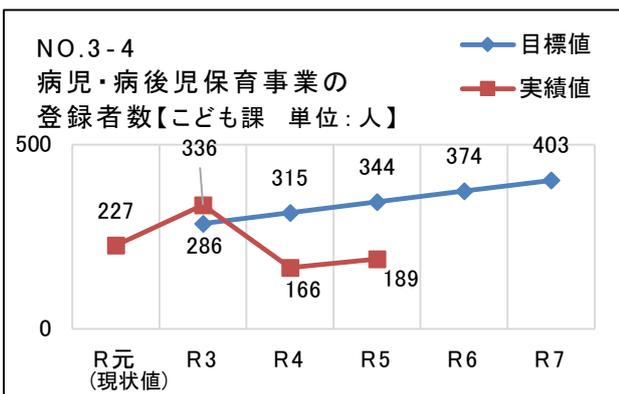


成果

「おねがい会員」の新規登録者数が前年度よりも多く、地域における子育て支援の活性化につながった。

課題・方向性

「まかせて会員」の新規登録者数が思うように伸びておらず、地域の人々の子育て支援への参加を促すような周知方法等を工夫していく。

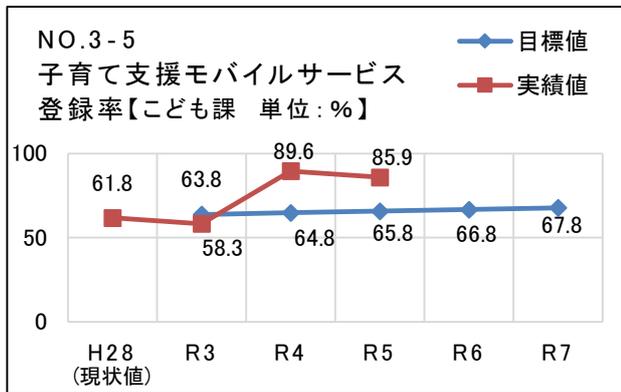


成果

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、一部利用制限がかかっていたことから、登録者数も大幅に減少していたが、5類移行による受入制限の緩和や巡回支援の再開により、登録者数を前年度比増(+23件)とすることができた。

課題・方向性

これまで年度初めにかけてのみ周知していた利用登録通知を年度途中にも複数回周知するなど、積極的に利用登録の推進を図るほか、より使い易い予約システムの活用について検討を進める。



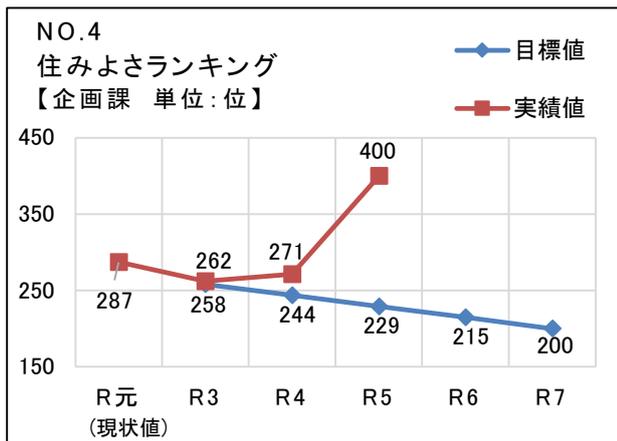
成果

- ・同一人に対し、妊娠届出時や妊婦訪問さらに新生児訪問と複数回、モバイルサービスの登録を促すことで、高い登録率を維持することができた。
- ・年度途中の9月から3月まで、毎月子育てワンポイントアドバイスをプッシュ通知で登録者に情報配信を行うとともに、子育ての相談場所として「かるがも相談室」の周知を行った。

課題・方向性

- ・今後も、個々の状況に応じ、モバイルサービスの登録を個別対応で促すことにより、登録率の向上を目指す。
- ・モバイルサービスの内容についても、コンスタントに情報発信を行うことで、登録者に対し、子育て情報をタイムリーに届けられるようにしていく。

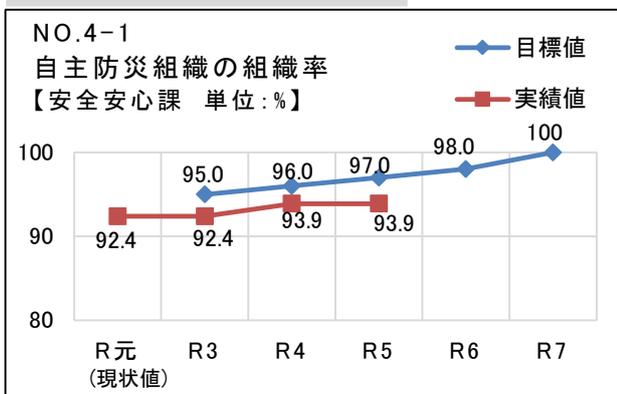
基本目標 4 人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる



成果

課題・方向性

分野：防災



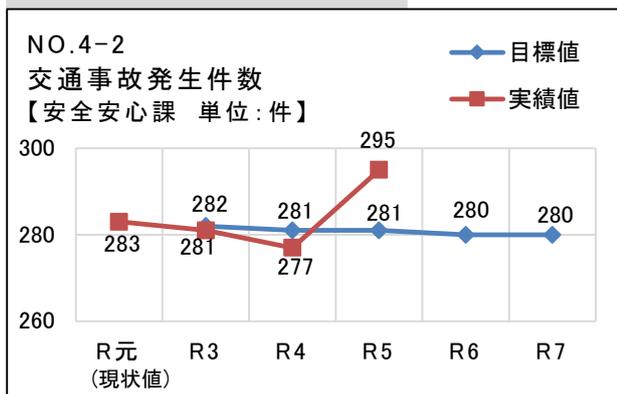
成果

自主防災組織が未設立の行政区に対し、自主防災組織の設立を促した。

課題・方向性

各地区において自主的な防災活動が行われるよう、地区防災計画策定の支援を行うことなどにより、行政区による自主防災組織設置の動機づけをし、設置率の向上に努めていく。

分野：道路・交通

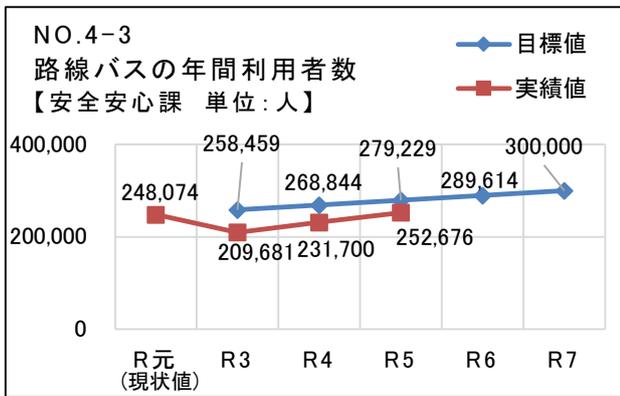


成果

関係機関・団体と連携し交通安全運動を実施するとともに、地域要望等に基づき、交通安全施設の整備・維持に努めたが、交通事故発生件数が増加してしまった。

課題・方向性

関係機関・団体と連携し啓発に取り組むとともに、交通安全施設整備の推進を図る。



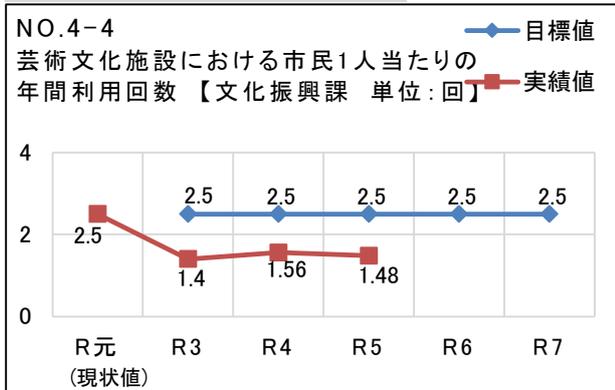
成果

- ・館林都市圏地域公共交通計画に基づき広域路線1路線を廃止し、市内生活路線2路線を運行開始する路線再編を行った。
- ・また、市内路線への電気バス導入や、バス停へ上屋設置する環境整備を行った。
- ・利用促進事業としては、沿線高校への啓発チラシ配布や乗り方教室を実施した。

課題・方向性

館林都市圏地域公共交通計画に基づく施策を推進することにより、暮らしに寄り添う交通ネットワークの構築に取り組み、利用者数の増加を目指す。

分野：文化

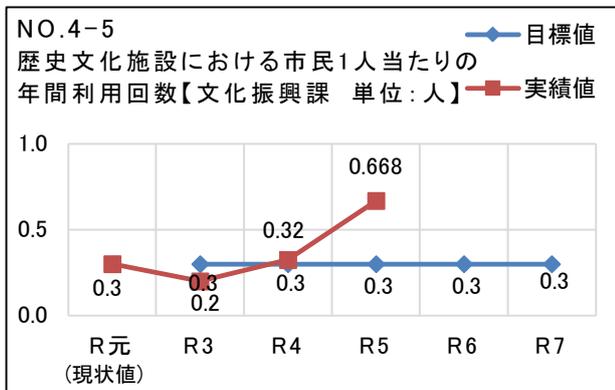


成果

前年度に比べ芸術ホールの利用は減少したものの、文化会館では、イベント開催の復調傾向によりホールや会議室利用者数が増加した。

課題・方向性

芸術文化活動を推進するよう、老朽化した施設の維持管理が課題であり、安全安心な施設の利用のため、施設の長寿命化を図っていく。



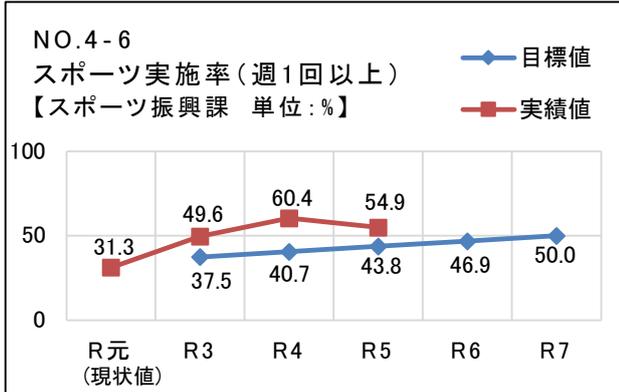
成果

- ・館林市第一資料館は、図書館工事の影響で臨時休館措置をとったが、文化会館市民サロンを活用した代替展示室への来館者が多く、大幅増となった。
- ・田山花袋記念文学館も消火設備改修工事により常設展示室のみの公開となったが、企画展のほか高校生による「花袋作品朗読プロジェクト」、「花袋カード」作成・配付など新たな取組の効果もあり、前年比で微増となった。

課題・方向性

引き続き魅力ある展示会・ワークショップ等の企画・開催、施設整備につとめ、広報・周知活動を一層強化することで、市民が必ず年1回以上の施設利用を行うよう働きかけ、地域住民のシビックプライドを醸成していく。

分野：スポーツ



成果

スポーツ実施率は、スポーツ事業参加者及び公民館利用者等へのアンケートにより算出しており、体力の保持増進や健康志向の高まりから各種スポーツ事業への参加意識の向上が見られ、仲間づくりやコミュニケーション形成など、市民それぞれの目的に応じ取り組んでおり、目標値に達することができた。

課題・方向性

今後も、市民ニーズを取り入れた各種スポーツ体験教室や家族や団体に気軽に楽しめるレクリエーション事業等を実施するとともに、よりスポーツに取り組みやすい環境を整備し、実施率を向上させていく。

分野：行政活動



成果

大手ポータルサイトの通年利用とともに、さらに2サイト「ふるなび・ANA」を追加したことにより、寄附額・寄附件数ともに大幅増とすることができた。

課題・方向性

さらなるポータルサイトの追加、新たな返礼品の発掘を進めていく。